Osaka University Knowledge Archive

Title	語文　第16輯　編輯後記/投稿規定/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 1955, 16
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68492
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

編輯後記

助教授のAさんが午後の講義を終へて研究室に戻ってきた。丁度この欄に何を書かうかと思って机にむかってゐるところだった。間もなくAさんの後を追って来たのであらう五六人の学生がノックの音とともにざわざわと入ってきた。学生幹事のB君が鞄から「文学ゼミナール」の趣意書をとり出して説明した後、週末の二日間ぼくたち五人京都で行はれるこの第一回ゼミに行くのだがそれに対するカンパに応じて欲しいと言ふので、私は、そんな金なら自治会から補助して貰へばいいと言ふと自治会はありませんと言ふ。旧制の学生が卒業してしまって後自然解消してしまったものらしい。ポケットから百円一枚を出した。Aさんも、子供にねだられるオヤジの気持でと二枚出した。学生たちは礼を言って出ていった。自分のために自分のつかふ金を乞ふといふことをさげすむ感覚を彼らは失ってゐるのである。

しばらく前のことである。部屋に戻ると私の机の上に菊版六百頁位の書物が包装紙につつんで置いてあり、その上側に、C先生からお借りしてゐましたが用が済んだのでお返へしおき下さいと書いた紙片がはりつけてあった。借りてゐたのは女子学生のD君である。僕達の学生時代には先生に拝借した御本を返へすのにお宅まで伺ったものだ、とその時は思った。

新制になってから学生の思想も功利的になった。名利を超脱するといふやうな風も一般にかげをひそめてしまったやうに見える。

本誌はこの第十六輯で漸く発刊　五周年を迎へたわけである。御後援下さってゐる購読会員の諸賢ならびに一文(いちもん)の儲けにもならない本誌の出版を引受けて下さってゐる文進堂書店の前田勘次氏に心から感謝したい。第八輯以後定価はあげられてをるが実費は一冊につき七十円はかかってゐるはずである。

もずを聞く新居とゐへど基地近し

基地の問題もその近くに住まってみてはじめて切実になってくる。編輯に時を過ごしてゐるうちに季も移ろふて何となく心あはただしい頃となってしまった。

佳き酒は寒夜孤独に飲むべかり

向寒の折柄、読者諸賢の御自愛を祈って筆をおく。

（八　木）

◇投稿規定◇

。直接購読者は投稿することができる。
。原稿の内容は国語・国文学、国語教育に関するものであること。分量は四百字詰原稿用紙二十枚以内とする。
。原稿の送り先は「大阪府豊中市柴原、大阪大学 文学部 国文学研究室内、語文編輯委員」宛。
。原稿の採否は編輯委員に一任のこと。
。採用しなかった原稿は返送料が添付してあれば返送に応ずる。
。一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられたい。

❖雑誌の寄贈・交換について

。雑誌の寄贈・交換は大阪府豊中市柴原大阪大学 文学部 国文学研究室宛に願いたい。

❖購読について

。購読希望者は発行所宛前金を添えて申込むこと。（送金は振替を利用されたい。）

一部　五十円　　送料八円
一年分(四回分)　二百円(送料共)

。五冊以上一括購読の時は一割引の上送料は不要とする。

¥ 50

発行所　大阪市南区横堀 7丁目19　文　進　堂　振替大阪112730番 電話船場(25)1990番
編輯者　大阪府豊中市柴原　大阪大学文学部国文学研究室　代表 小　島　吉　雄